

「土地・建物」 ～慣習～

地鎮祭【じちんさい】

工事を始める前に敷地を祓（はら）い鎮める祭事のことです。敷地の中ほどに四本の青竹、斎竹（いみだけ）を立ててしめ縄を張り、中央に祭壇を設けて神事を行います。施主、工事関係者が参会し、神主が儀式を進めるのが一般的です。施主はお供物と神主への謝礼を用意します。お供物には野菜、果物、魚、酒、水、塩、米をそろえることもありますが、簡略化するケースも少なくありません。謝礼の額は 2～5 万円程度で、「初穂料」や「玉串料」と書いたのし袋に入れます。

上棟式【じょうとうしき】

軸組工事の最後に棟木を上げるときに行う儀式です。「建前（たてまえ）」とも呼びます。工事の無事を祈念する、職人の儀式という意味あいを持ち、棟梁が取り仕切ります。棟木を上げ終わった後、その上に丑寅（北東）に向けて「幣束（へいそく）」を立て、破魔矢を飾って魔除けとし、四隅の柱に酒・塩・米をまいて清めます。式の後には「直会（なおらい）」と呼ばれる小宴席を設けてお酒をふるまったり、施主から工事関係者へ祝儀を渡すこともあります。